

国際開発協力論 I

元田結花

2022 年度は、2021 年度に引き続き、オンデマンド形式の授業運営であったことを配慮して、主に 3 つの小レポートの内容を踏まえて成績評価を行った。筆記試験は実施していない。レポートはいずれも、教員が提示した「問い合わせ」について、授業内容を踏まえて、履修者の考えを 2,400 字程度で論述するものであった。スケジュールとテーマ、点数配分は以下の通りである。

レポート番号	課題提示日	テーマ	締切	DVD 視聴期間	点数配分
1 (*)	4/21	国家間の格差がなぜ生じたのかについて、その時点での自分の考えを述べる	5/12	N/A	あわせて 31 点
	5/12	DVD 視聴を踏まえ、現在の国家間の格差が生じた理由について、各自の考えをまとめる	6/9	5/12～6/9	
2	6/16	DVD 視聴を踏まえ、新自由主義に基づく国際開発援助政策を如何に評価すべきなのかについて、各自の考えをまとめる	7/14	6/16～7/14	31 点
3	7/7	全 14 回分の授業の内容を踏まえ、国際開発援助政策の基礎となっている考え方について、各自の考えをまとめる	8/15	N/A	33 点

* 1 つのレポートを、2 回に分けて書く（2 回分合わせて 2400 字程度の分量）

3 つの小レポートに加えて、全 14 回の授業を通じて、特に興味を持ったこと・新たに学んだことについて、200 字程度でコメントを用意し、第 3 回課題レポートと合わせて提出するよう求めた。これらについては、条件に合致する形で提出する限りにおいて、5 点を必ず付与した。

各レポートの質問の趣旨や、その質問に答えるために求められる知見については、該当する授業回にてレポート課題を提示した際に、特に視聴するように指定した解説動画において十分に説明してあるので、ここで敢えて説明することはしない。換言すれば、指示に従って、関連する解説動画を視聴していれば、出題の趣旨に即したレポートが執筆できるようになっているので、労をいとわず指定された解説動画を視聴することが求められる。

また、受講生が、正しく出題意図を理解し、授業で学んだ内容を適切に援用してレポートを用意できたかどうかを確認できるよう、希望者には、Zoom を用いる形で、提出期限後にフィードバックを与えることとした。2022 年度は希望者はいなかったが、このような、自分の理解度を確認できる機会を是非活用してほしい。

第 1 回・第 2 回課題レポートについては、問い合わせ要求された各点に沿った形で、DVD および該

当する授業回の解説動画から入手できる情報を、的確に整理できていたものが多かった。しかしながら、本授業全体の内容を踏まえて執筆することが求められている第3回課題レポートについては、複数の授業回にまたがる形で扱われた重要な論点(こちらも複数に及ぶ)を、相互に関連づけることができていないものが散見された。出題する立場としても、第3回課題レポートはそれなりに難しい課題であると位置づけていたため、解説動画内で、どの授業回のどの点に留意すべきか示唆していたことを鑑みると、受講生側がどこまで求められた事前準備に時間を割いたのかという点に、疑問が生じる。

なお、受講者自身の見解については、「依拠すべき立場」があらかじめ決まっているわけではない。根拠を持って提示されているかどうかが重要である。この点については、大半のレポートは合格点に達していたと言える。

授業のコメントについては、どのような内容に受講生が関心を持ったのかが率直に書かれており、教員としても興味深く読んだ。